

市長と住民の「こんだん会」

～臥雲市長にアタック！地域の元気な声を届けよう～（報告）

- 開催日時 : 令和4年9月28日（水）午後7時00分～9時15分
開催場所 : 松原地区公民館 大会議室・視聴覚室
開催テーマ : 「安全安心に自分らしく暮らせるまちづくりの取り組み」
開催内容 : 「松原モールぷろじえくと」「地域包括ケアシステム推進委員会」「松原サポート」「自主防災会」の活動報告・将来展望・市長への想い
参加者 : 29名（市長、市職員2名、出席者16名、傍聴者9名、センター長）

1 市長あいさつ

市長と住民の「こんだん会」は松原で12番目になります。

松原は、松本市の中では、ニュータウン、街に新しい住宅が築かれ、（40年）期間が経過し、今後どのように世代交代が進められていくのか、新しくできた街がゆえに地域の繋がり、あるいは多世代の繋がり薄いのではないかと感じました。

そうした観点で高齢者の皆さんの見守りや地域の公共交通の話をどのようにしたら良いのかなということで、今日は皆さんと一緒にまちづくりを考えさせていただければと思います。よろしく願いいたします。



2 参加団体発表

(1) 松原モールぷろじえくと(下村 純 地区公民館長)

ア 活動内容

2018年松原モールぷろじえくとスタート。まず、松原モールの価値に気付いてもらうためにクリスマスのイルミネーションを始めた。また、1998年に壊れた時計台の修理費用を集めるため、時計台コンサートのコンサートも始めた。募金活動では、修理費用を捻出することはできなかったが、地区住民の手により、2020年からくり時計台を修復した。



また、モールを美しい状態に定期的に美化活動を実施している。

2021年には、松本市の景観賞のまちづくり活動部門賞を受賞した。

イ 目標と課題

- (ア) 時計台コンサートも美化活動も協力者が増えたとはいえ、まだまだ不十分であり、さらに協力者を増やすことが必要。
- (イ) 松原モールを活用して各種イベントを行い、人々の交流を促進し、地域を活性化させる交流機会の創出。

【市長コメント】

松原モールがからくり時計台を中心に人々の集う核になることを願う。

一方であれだけ立派なからくり時計台であったり、インターロッキングを整備したがゆえに、逆に維持していく大変さということも伺い知れた。

松原モールが地区だけではなくて、松本市内の若い世代の人たちと繋がっていけるようになれば良いなあと感じたので、市としても市内の若い人たちと地区を繋いでいけるようなアクションが必要だと考えるので皆さんと意見交換を重ねていきたい。



ウ その他の意見

(ア) 松原モールと繋がっている松原中央公園の階段が老朽化していてぼろぼろと崩れてくるので、全面的に直してほしい。

(イ) 松原中央公園にある木製のベンチは、蜂に巣を掛けられるのでプラスチック製に替えてほしい。

(ウ) 松原中央公園には階段はあってもスロープがない。車いす利用者など弱者・マイノリティに配慮がほしい。

(エ) 松原モールは市道であるが、車道の扱いを辞めて歩道の扱いとしてほしい。車道となっているがゆえに修繕されない部分がある。

(オ) 市道を利用するときの手続きが猥雑。もっと簡略化できないか。

(カ) 市道を外せないか。

(ア) (イ) (ウ) については公園緑地課へ依頼。(エ) (オ) (カ) については維持課へ依頼。

【市長コメント】

松原モールの扱いは、基本はこれから先を見通して色々行われていく活動を自由に制約なく活動できることが一番望ましいので、まずはそのことを大前提にして、市道扱いしていることによってそれが妨げられているとすればそれを外していく。

市道であることで、手が入っている、お金が入っているという側面があるとすれば、その兼ね合いをどうするかというのは杓子定規にならずに実態に応じた対応ができるようにしっかり連携を取っていきたい。

(2) 地域包括ケアシステム推進委員会(新保 俊尚 会長)

ア 活動内容

2013年に高齢者等支援の仕組みづくりのアンケート調査からスタート。

2016年に市からの要請を受け、松原に地域包括ケアシステムは必要か検討するための地域包括ケアシステム検討会議を2017年2月に立ち上げた。その中で、地区資源発見シートを作成し、人の触れ合う場づくりの場はあるので、それをさらに充実させて、関係づくりを強化することとした。

そのために2018年地域包括ケアシステム推進委員会を発足。松原サポートと百歳体操のグループ立ち上げが成果。

イ 今後の課題

(ア) 避難行動要支援者の個別避難計画の作成

(イ) 免許返納後の交通手段の確保

【市長コメント】

松原サポートも百歳体操もコロナ禍においてスタートさせたことに驚

く。福祉ひろばの使用の制限だったり、今までやれていたことをストップさせたりした中でのスタートに敬服した。

その上で松原サポートのサポーターをさらに確保充実させることは大きな課題である。それに対して行政が答えられることがあればお聞きしたい。

また、百歳体操については、少人数だから、自発だから持続できている点が必要なポイントだと感じた。

【平林健康福祉部長】

百歳体操、要援護者の関係、互助会の関係も全国的にもすごく早い取り組みで、厚労省でも市でもそうだが、こういうふうになっていけばいいなという一番良いモデル的なものを紹介いただいたと思っている。

避難行動要支援者の関係は、市でもなかなか遅々として前に進まないのが現状である。

1万3,000人登録されている要援護者をどう避難させるかということとは、災害の状況とか、地域とか、障がいの程度でも異なるので、それを考慮して取り組んでいかなければならない課題だと感じている。

ケアマネさんとの連携については、市の障がいの部門、高齢の部門でケアマネさんと繋がりががあるので、大災害時に高齢の方、障がいを持った方へケアマネさんを繋いでいく方策は考えてまいりたい。

また、数年前の大雨の時に中山地区で福祉避難所的な所に避難していただいた事例もあるので、重度の方の自宅避難についても意見をいただきながら考えていきたい。

【田原交通部長】

今年度は来年4月にスタートする路線バスの関係に取り組んでいる。

アルピコ交通の路線バス、西部地域のコミュニティバス、市街地を走るタウンスニーカーを実際の運行は、アルピコ交通、タクシー事業者に運行してもらおうが、市役所が責任を持ってやっていくスタイルに変えて幹となる幹線の連携を深め、ネットワークを強める。

もう一方で、地区の高齢者の通院、買い物に関する地域の要望についても取り組んでいる。モデル地区として、梓川地区と寿、寿台、松原の三地区を一つのエリアとしたA Iのデマンド交通を検討している。

具体的に申し上げますと、今の三地区のエリア、大体11万km²あってその中に仮想のバス停を130か所設定をして、利用者から電話とかスマホで何時にどこからどこへ行きたいかリクエストを受けて、複数リクエストを受けた段階で、2台のコミューターという10人乗り位のワンボックスでリクエストに沿って運行するものである。

まだ、庁内調整の段階だが、今後関係地域づくりセンターとも調整を進めていきたい。

ウ その他の意見

(ア) 市の方も高齢化が進んでいく中で本当に大きな一歩と受け止めているが、もう一步踏み込んで車いすを利用している方が利用できる公共交通の検討をしてほしい。

(イ) 避難行動要支援者名簿の活用ができていない。

(ウ) 高齢化が進み除雪できない人が増えている。その方たちの除雪について検討を。

【平林健康福祉部長】

(イ)の避難行動要支援者の名簿の活用については、個人情報なので、情報を出してくださった方との合意もあるので、かなり機微なところがあるので扱いはかなり慎重にやらなきゃいけないところがある。

本来目指したい姿は、その名簿を地域の皆さんがどこに要援護者が居るという情報を共有できて、そしていざとなった時にそれを受けてすぐ動ける。これが一番目指したい姿である。これを連合町会単位で全部やるってことはかなりまだハードルが高いので、単位町会で町会長さんが中心になって、顔の見える関係で、いざという時に助け合える状況が一番いいかと思う。

この取り組みは非常に大変であるが、進めていただけるように市としてはメッセージを発し、避難行動要支援者名簿の活用方法についてはホームページへ表示してまいりたい。

【新保地域包括ケアシステム推進委員会会長】

(ウ)については、松原サポートでは無理だと思われるので違う角度で検討したい。



(3) 松原サポート（服田 芳明 地区生活支援員）

ア 活動内容

松原サポートの仕組みは、登録している利用会員が事務局へ支援依頼を行い、事務局は支援できる支援協力員を探して、利用会員に利用券を購入いただき、支援協力員が支援を実施したら利用券を受け取り、事務局で利用券を換金して渡すものです。

現在、利用会員は14世帯あり、支援協力員は18名おります。支援の内容は、ゴミ出し、清掃、洗濯、調理、草取り、庭木枝切り、雪かき等です。件数は、令和2年度28件、令和3年度30件になる。

いきいき百歳体操は、令和3年6月に松原第2町会の有志で始まり、社協だよりで募集を行い、後2グループが立ち上がった。

かみかみ百歳体操も取り組み始め、効果を実感している。

イ 市長への想い

(ア) 地域包括ケアシステムの互助の精神と高齢化リスクについて、もうちょっと行政が住民に啓発してほしい。

(イ) このまま高齢化が進むと地区だけでの支え合いには限界がある。

例えば、松原のような坂の多い所だと数百mの移動でも困難。そういことも含めて、中長期的な視点での地域づくりのビジョンを示して頂きたい。

【市長コメント】

一点目の住民への啓発ということは、今日紹介いただいた松原サポート、百歳体操などの具体的なそれぞれの地域での取り組みを松本市全域の方々に知っていただくことが大切である。



互助の精神、高齢化リスクという普遍的な問題を色々な媒体を使って伝えていくことを一緒にやらないといけないと思う。

もう一点、地域の支え合いに限界があるのを、公費を使ってどの部分に、より支え合いのサポートをさらに必要とするのか考えていくこと。

これは、35地区ごとに地理的要因や人口の割合に差があるので、それに応じたきめ細かな対応策を作って、そこにどうお金を配分するかが、ビジョンというか、大ぐくりとすると、あれもこれもということがなかなか難しい中で、何を一番優先するのかということをそれぞれ

れの地域の皆さんの声をできるだけ拾い上げて、それぞれの地域の実情に応じた行政の支えに取り組みたい。

(4) 松原地区周辺の地勢と災害リスク（宮澤 信 自主防災会アドバイザー）

ア ハザードマップでみる松原地区

松本市のハザードマップが更新され、新しい浸水想定に牛伏川が加えられ、100年に1度、1,000年に1度の大雨想定が追加された。牛伏川の河岸侵食の危険がある。そして、ここに大規模な産業廃棄物処理施設があるので、大雨による浸水によって崩落し、川が閉塞された場合は土石流の危険がある。

イ 牛伏寺断層

牛伏寺断層は、糸魚川＝静岡構造線活断層帯に含まれる。最後の地震が1,200年前なので、1,000年周期で言えばM7.6程度の地震の発生確率は30年で14～30%と内陸活断層の中ではトップの高い危険度である。

このことは、市の防災マップだけでは読み取れないが、地域防災計画では非常に大事なポイントになる。

松本市と信州大学の共同事業で、「揺れやすさマップ」を出している。

松原は、牛伏寺断層に近いことと下に埋まっている伏在断層があるので安心はできない。

ウ 牛伏川地域の特質

牛伏川上流域は、地滑りや崖の崩落など危険地帯がたくさんある。ハザードマップは雨の想定だけであるが、地震も想定しなければいけない。

堤防が崩壊すると二次災害で松原が危険にさらされる。

また、牛伏寺断層は、牛伏川をほぼ直角に横切っているので、河川を横切る断層は、川をせき止めたり、堤防を決壊させたりするので、注意が必要である。

寿周辺も水に関連する地名が多い。これは、田川が溢れた訳ではなくて、牛伏川から押し寄せた土砂による扇状地である。松原も同じ扇状地である。

エ 市長へのお願い

地震の二次災害、及び想定外の大雨が降ったときは、牛伏川上流域の安全確認を市で行ってほしい。そして牛伏川上流域の安全確認をすることを市の防災計画に入れていただきたい。

【市長コメント】

地勢と災害リスクについて防災アドバイザーの立場からご指摘いただいた。地震防災の計画ではハザードマップを越えるリスクを考えてい

かなければならない。

また、具体的には、最後にお話しのあった地震の二次災害、及び大雨が降った場合、牛伏川上流域で何が起きているかを行政として安全確認、現状確認を行って、それを住民の皆さんに啓発していかなければいけないなど感じたので検討したい。

オ その他の意見

(ア) 最近牛伏川の河川内に雑木が繁殖している。大雨の時に詰まって氾濫する可能性があるから、河川の整理をしてほしい。

【牛丸センター長】

牛伏川の管理は、松本建設事務所になる。町会連合会として県へアカシア等の雑木の伐採等について毎年依頼している。まだ、実施されていないので、引き続き県に要望していく。

(イ) 指定避難所が危険にさらされているという話があったが、これは明善中学校ということでよいのか。

県の砂防ダムは立派であるが、壊れてしまう危険もあるのか。

【宮澤防災アドバイザー】

砂防ダムが危険ということではなく、普段はちよろちよろとしか流れていない川が大雨の時には土石流を起こす。流域全体が危険だということを承知しておかないといけない。

防災マップではこの範囲までしか被害が来ないようにしているが、断層が動いたり、地震で大規模な土砂崩れが起きたりすると、この土砂の流入の先に学校がある。どこまで来るかは別問題として、その流れの先がちょうど指定避難所になっているので、やはり上流の安全確認を必ずしてもらいたい。

(ウ) ハザードマップでは、松原地区は100年に一度、1,000年に一度ということで色が付いているが、100年に一度、1,000年に一度というのは人によってイメージが異なる。芳川地区とか鎌田地区は、大雨時には浸水する想定になっているが、交通の面で人気がある。100年に一度、1,000年に一度という言い方を具体性を持ったものに変更できないか。

【宮澤防災アドバイザー】

皆さんは1,000年に一度って起こるのって思うかもしれないが、実は長野県でも起きている。それは、昭和36年の三六災害、あのときの飯田の雨の降り方が1,000年に一度。飯田は百数十年気象統計があるので、かなり信頼性が高く、ああいう降り方をしたときが1,000年に一度。

アメダスだとまだ40年位しかデータがないので、簡単に1,000年

に一度となってしまふ。例えば、一昨年の台風の災害の千曲川の大洪水はアメダスの計算だと1,000年に一回の計算になるが、一回降っちゃうと多分数百年に一回となる。

1,000年に一回はあり得ない数字ではないことを知っておきやなきゃいけない。

【市長コメント】

1,000年に一度っていうのは、絶対に起こり得ないことではない昨今の気象状況や災害の状況になってきたということだけは共通理解としてやっていただきたい。

最近メディアでもこれまで経験したことがないような災害が起きる可能性があると言って注意警戒を呼び掛けるのはそういうことだと思う。

可能性がゼロではないので、準備をする、万が一そういう事態が起きたときに何をするか、リスクと背中合わせでやっていかなきゃならない中で、自分たちがどこまでそれを聞いて、答えていくか一步一步でも進めていきたい。

(5) 防災・防犯部会（太田 翼 会長）

ア 活動内容

2018年に総合防災訓練・避難所運営訓練を実施した。初めて各班別に安否確認訓練を行い、活動班を各町会に割り当て避難所運営訓練を行った。

総合防災訓練を行って見えてきた課題の簡易トイレの設置場所は、中学校施設管理者と事前協議を行い決めていきたい。また、避難者数に応じた居住面積確保のため、フレキシブルに対応できるレイアウト作成方法を検討している。

イ 自主防災会の課題と対策

- (ア) 防災の役員が1年ないし2年で交代するため、継続性のある地区の防災力向上を担うために防災アドバイザーを含めた防災三役会を立ち上げた。
- (イ) コロナ禍で防災訓練が実施できていないので、自宅での地震対策の啓発活動とコロナ禍での避難所レイアウト作成と運営方法の検討をする。
- (ウ) コロナ禍での避難所収容人数の明確化と不足の場合の対応の検討。
- (エ) 避難行動要支援者の個別避難計画の作成
- (オ) 避難行動要支援者が自宅避難とする場合の非常電源などの整備。
- (カ) 平日昼間の班長、町会長不在時の災害への対策。

(6) 町会新役員「防災アドバイザー」の新設（黒澤 正吾 自主防災会アドバイザー）

活動内容

2017年に町会の中で、防災・防犯部長は2年ごとの持ち回りで継続した取り組みができないので、防災アドバイザーという役職を新設することとした。そこで、市の講習を受けて2018年度から松原第6町会の防災アドバイザーに就任した。活動は、防災・防犯部長の補助と防災通信の発行である。

今年度から連合長会の自主防災会の防災アドバイザーも受け、コロナ禍でも連合長会として防災に関してより広域に情報発信を行ったり、防災対応のレベルアップを図りたい。

【市長コメント】

太田さんからは、防災の山積する課題について発表いただいた。コロナ禍での避難所のスペースの確保は、コロナがこの2年間で日常的に存在する病気になっていくのであれば、少し見直せる部分があると思う。

それぞれの地域の皆さんから意見を聞いて改善改良できることはしなきゃいけないと思っているのでよろしくお願ひしたい。

また、黒澤さんの防災通信に目を通させていただくと、松原第6町会だけでなく、松本市全域にとっても共有できるもので、防災の基本となる提案、メディアの報道ではそこまで精力的に伝わらないところまで、専門的にかつ分かりやすくまとめられている。

これは、ぜひ松本市のホームページにも掲載をさせていただければありがたい。それを目にした他の地域の方々が自分たちも作ろうじゃないかという教材にもなり得る。

市もそれを一つの題材として、より市民の皆様に分かりやすく、重要で専門的な話を伝えていくようにしたい。

3 市長全体講評

今日で12回目ということを目頭で申し上げたが、それぞれの地区で課題は様々であることはもちろんだが、参加されている方の発言や報告の内容についても色々異なると感じた。

今日の発表でもそれぞれの取り組みが他の地区では無いことを先進的にされていたり、松本市の危機管理部の専門職以上に知見を持っておられる方がリーダーシップを取って活動されていたりするということが印

象深く感じました。

一方で、松原の次の世代にどう街を引き継いでいくかというやはり一番大きな課題があると思う。

それに向けて今日いただいた要望、宿題を持って帰って改めて検討させていただく。

私達ができることとして一番は、松原で行われていることをもっと松本市全域に知らしめること、それによって今の松原の取り組みに共感や面白さを感じて、若い人達が参加する、大学生が参加するというようになっていければと思う。

今日ここに来る直前に八十二銀行と長野銀行が来年6月に経営統合するというニュースが飛び込んできた。コロナという2年の動きがデジタル化促進や脱炭素社会の到来を加速して、色々なあらゆる大きな変化が今起きつつある状況だと感じている。

それは人口減少や高齢化社会の問題の深刻さを和らげるものではないが、一方で何かこう変化の対応というものは、新しい動きや若い世代の人達の取り組みの後押しになっていることもどこかで感じられる。

松原が35地区の中の非常に特色を持った地区として、取り組みを進めていただけることをお願いして、また私達もしっかりと福祉の対応をすることを約束する。

今日はどうもありがとうございました。



(閉 会)